

編集後記

昨年から義務づけられたメタボ診断ですが、皆様の判定結果はいかがだったでしょうか？ 私もご多分に洩れず…ということで、週末に近所で自転車こぎをはじめてみました。我が家は江戸川流域にあるため、近所と言うにはかなり遠大ですが延長約60kmの川の両岸につくられたサイクリングロードをよく使わせてもらっています。

江戸川は関宿水門で利根川から分流し、茨城・千葉・埼玉・東京の1都3県を縫う大きな川で、私は純然たる自然河川だと思っていたのですが、実は江戸時代(1600年代)に上流部を開削して流路を変えた人工水路とのこと。また中流部には「利根運河」というものもありますが、こちらは東北地方や北関東からの物資を、海の難所である房総半島沖を通らず、利根川と江戸川をバイパスさせて運ぶために19世紀末に開削された運河だそうです(完成直後に鉄道が開通し、運河としての役割は短命に終わったようですが)。

江戸川や利根運河を含めた利根川水系を一つの河川と見なすならば、それらに囲まれた千葉県野田市は利根川に浮かぶ巨大な島だ、といった趣旨の書物も近所の図書館で見つけたことがあります。その野田市やお隣の流山市は古くから醤油やみりんの産地となっています。

このように江戸時代に開削された人工水路であり、また現代の大規模な堤防にも囲まれた江戸川ですが、実際に自転車で走ってみると、歴史や、たくさんの緑に彩られたちょっとした「大自然」すら感じさせられるなかなか気持ちのいい流域となっています。

さて、地元のうんちくを長々と書き連ねて恐縮でしたが、今月号は「建設施工の環境対策」特集ということで、環境に関する行政情報や、環境に配慮した施工・技術、環境を改善・改良する技術、環境をモニタリングする技術などについて報文をご執筆いただくとともに、神戸大学大学院教授道奥先生には「自然共生型流域圏の構築による社会資本の再整備」と題する巻頭言をご執筆いただきました。

我が国は水だけは豊富にあるものと思っておりましたが、道奥先生によれば実は現人口の半分を養うのが精一杯の水資源量であるとのこと。自然環境容量とのバランスを考え、自然環境と同化したインフラ整備が必要ということで、けっして後ろ向きではない、新たな時代の社会資本再整備に建設技術者の一員として参画していければとの思いを強くしました。

最後になりましたが、年度初めのお忙しい時期にもかかわらずご執筆いただいた方々には深く感謝申し上げます。

(泉・宮路)

7月号「都市環境の整備向上」予告

- ・エコまちづくり事業による都市環境対策の推進
- ・「環境舗装東京プロジェクト」の取組み
- ・都市生態系に配慮した環境計画技術
- ・視覚障害者誘導技術(ブロックボイス)
- ・首都高速道路の緑地創出の取組み—高架橋側面緑化とパーキングエリア壁面緑化の設計施工—
- ・地球に優しい舗装システム—完全付着型コンクリートオーバーレイ工法—
- ・給水機能付き緑化ブロック舗装システムの開発—打ち水ガラスパークとその開発経緯—
- ・大気を浄化する機能を持つ光触媒舗装「フォトロード工法」
- ・都市部におけるアンダーパス急速施工(URUP工法)

No.712「建設の施工企画」 2009年6月号

[定価] 1部840円(本体800円)
年間購読料9,000円

平成21年6月20日印刷

平成21年6月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 辻 靖 三

印刷所 日本印刷株式会社

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井新一郎	今岡 亮司
上東 公民	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
佐野 正道	新開 節治
関 克己	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
橋元 和男	本田 宜史
渡邊 和夫	

編集委員長

岡崎 治義 (社)日本建設機械化協会

編集委員

森川 博邦	国土交通省
浜口 信彦	国土交通省
山田 淳	農林水産省
松岡 賢作	(独)鉄道・運輸機構
圓尾 篤広	(株)高速道路総合技術研究所
石戸谷 淳	首都高速道路(株)
高津 知司	本州四国連絡高速道路(株)
平子 啓二	(独)水資源機構
松本 敏雄	鹿島建設(株)
和田 一知	(株)KCM
安川 良博	(株)熊谷組
渥美 豊	コベルコ建機(株)
富樫 良一	コマツ
藤永友三郎	清水建設(株)
赤神 元英	日本国土開発(株)
山本 茂太	キャタピラー・ジャパン(株)
宮崎 貴志	(株)竹中工務店
泉 信也	東亜建設工業(株)
齊藤 徹	(株)NIPPO コーポレーション
高木 幸雄	日本道路(株)
宮路 勝善	日立建機(株)
岡本 直樹	山崎建設(株)
中村 優一	(株)奥村組
石倉 武久	住友建機(株)
京免 継彦	佐藤工業(株)
久留島匡繕	五洋建設(株)
藤田 一宏	施工技術総合研究所

発行所 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支	〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8	電話 (011) 231-4428
東北支	〒980-0802 仙台市青葉区二日町16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1	電話 (025) 280-0128
中部支	〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支	〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支	〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22	電話 (082) 221-6841
四国支	〒760-0066 高松市福岡町3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-8-26	電話 (092) 436-3322